

時事作品

目

尾藤三柳選

【特選】

去る者へも残る者へも花吹雪

佐藤 ヒサ

危機存のときに、藥が抜けまうに大物が去っていく自覚、泣き面に輝といわれたくないから平靜を装ってはいるが、無心の花吹雪を先刻に見通して笑っている。

【秀逸】

3Dで第3極を見る疲れ

山口 早苗

国民が解放されている。大政党を危亡に、第二極を自派、小集團が集りを争っているが、これを3D画像としてみても、火事場、口口似たりサ、さは消せない。

掌を何度も返すマニフェスト

松原 幸子

約束の数だけ掌を用意しておいて、約束の履行が無理なときは、それを裏返したりまた表に返したりすればいい。公約は公約破りはまじに始まったまぢかしてははい。

密約の灰を差し出す外務省

藤井 栄舟

よくも永いあいだ国民をたまたし縛けた元凶が、イヘル平和宣言の佐藤外相相たらたごころにもおめで。ひょうとすまもそんな裏取りがまを出してくるのでは。

移転先そろそろクジで決めようか

岸野たかまさ

無いあたまで絞るよりは、いってなん引きで決めたらどうか、とは若者の無責任な放言でも取れませんが、そんな愚い、愚かなは無能でしかないよが、ない政治

前号から本号まで、果てしないぬ

かるみを歩くよつな「普天間問題」

が続き、気がつけば、ほとんど前へ

進んでいないのは、当事者の優柔不

断と指導力の欠如によるものだろ

うが、それに対する時事川柳が、た

だ舌打ちばかりしていても始まら

ない。小沢は諷刺の対象になつて

も、鳩山は暖簾に腕押し之感があ

る。揶揄の対象と諷刺の対象とは異

なる。江戸時代までは、真に諷刺の

対象となるべきものから眼を逸ら

し、からかいや当てこすりだけに終

始した。諷刺すべきものと、そうで

ないもの見分けも、時事作家にと

つて大切なことである。その厳然た

る区別がないと、単なる風俗作家で

しかあり得ない。

その《目の力》を極限まで發揮す

ることを本欄では期待している。

満開の下で氷河の避ける音	同	松永昇児
日の丸がない万博のパピリオン	同	
日銀が顔をゆがめる与謝野節	同	
新党は軸足だけでたちあがる	同	
時効無き迷宮入りと御蔵入り	同	島崎穂花
米櫃を持ち総書記の遍路旅	同	
ユークロキリシヤ神話が黄昏る	同	
歌舞伎座の代わりのような新タワー	同	山口早苗
新聞にやっと出てきたもんじゅの名	同	
千円で行く連休のプログラム	同	
ヤワラちゃん金のバツジも欲しくなり	同	鈴木寿子
ピカソから百億円のラブレター	同	
哀しいね 抑止方っていうものも	同	
歌舞伎座は見納めたばこ喫み納め	同	島崎 肇
金バツジ投打でねらう夏の陣	同	
弟が独り船出をする弥生	同	小林寿寿夢
殺人の時効即日死語となる	同	
帽子から飛び出たハトに空がない	同	尾藤一泉
時効から箆で掬つたいのちの値	同	

普天間の五月の空は不透明	同	佐々木福太郎
参議院体育系が目玉です	同	
当て逃げのようにも見える先送り	同	
小泉の二世議場で透き通り	同	味野和一柳
日の丸がない友愛のパピリオン	同	小野寺帆平
追悼の追悼をするポーランド	同	松原幸子
神技のバーディー芝も総毛立つ	同	塩見佳代
密約を暴けば火の粉降りかかり	同	石井光夫
新党の中身は古い五人衆	同	斎藤ふじお
ギャルも来るファミリーも来る牛丼や	同	吉川一男
タケノコの伸びを新党見上げてる	同	無記名
アメリカの余震に揺れるトヨタ城	同	益子善三郎
また一つJAL借財の置き土産	同	三浦哲夫
百均とアウトレットで事が足り	同	小田由美
おしやべりを大臣にして口封じ	同	白川楽人
足元に時限爆弾抱く総理	同	久保昭二
いよいよの鳩は思案の目が空ろ	同	羽崎孝治
ここだけが昭和のままの基地の町	同	田口立吉
効く場所に釘が打てない自民党	同	川村雄一